

(FP04072)

Japanese Patent Application Laid-open No. 2002-211595 discloses bag with latch in which

a peripheral rim is heat-sealed like a bag to provide a laminate film bag. An upper part of the bag is heat-sealed in a seal pattern having a non-sealed recess 8 for forming a spout at the center inside. An unsealing means is provided across the recess. In addition, a latch comprising an insert and a receive is provided on an upper part of the heat seal on both side ends of the bag, constituting the bag. A base of the bag is preferably formed in a self-supporting format comprising a base film inserted.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-211595
(P2002-211595A)

(43) 公開日 平成14年7月31日 (2002.7.31)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード* (参考)

B 6 5 D 33/36
30/16

B 6 5 D 33/36
30/16

3 E 0 6 4
C

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2001-11103(P2001-11103)

(22) 出願日 平成13年1月19日 (2001.1.19)

(71) 出願人 000002897
大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
(72) 発明者 杉山 有二
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(72) 発明者 清水 将文
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(74) 代理人 100111659
弁理士 金山 聡

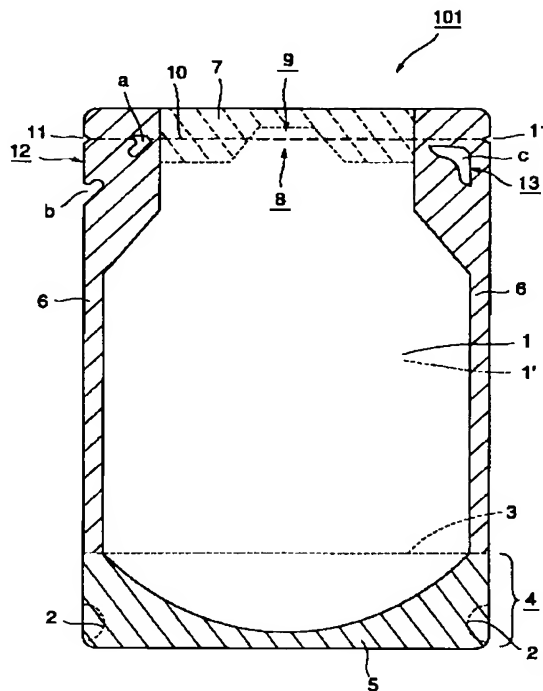
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 係止部付き袋

(57) 【要約】

【課題】 簡単な操作で狭い幅の注出口部を保形性よく形成でき、容量が比較的大きい場合でも持ちやすく、内容物の移し替えを安全且つ容易に行える係止部付き袋を提供する。

【解決手段】 周囲の端縁部を袋状にヒートシールしてなる積層フィルム製の袋であって、袋の上部を、内側の中央部に注出口部9を形成するための非シールの窪み部8を有するシールパターンでヒートシールし、該窪み部8を横切るように開封手段を設けると共に、該袋の両側端縁部のヒートシール部の上部に差し込み部12と受け部13からなる係止部を設けて袋を構成する。尚、袋の底部は、底面フィルムを挿入してなる自立袋形式で形成することが好ましい。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】周囲の端縁部が袋状にヒートシールされ、流動性を有する内容物が密封包装される積層フィルム製の袋であって、該袋の上部を封止するヒートシール部が、内側の中央部に注出口部を形成するための非シールの窪み部を有するシールパターンでヒートシールされ、該注出口部を開封する開封手段が該窪み部を横切るように設けられると共に、該袋の両側の端縁部のヒートシール部の上部に、開口された注出口部の両側を折り曲げて両側の端縁部同士を係止し、注出口部の開口を保持するための差し込み部と受け部からなる係止部が設けられていることを特徴とする係止部付き袋。

【請求項 2】前記係止部の差し込み部が鉤状の差し込み片で形成され、受け部が該鉤状の差し込み片と係合する切り欠き部または切り目線で形成されると共に、該鉤状の差し込み片が斜め外側上方を向き、且つ、受け部の切り欠き部または切り目線が、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向き、または横方向を向くように形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の係止部付き袋。

【請求項 3】前記袋の底部が、前後 2 面の壁面フィルムの下部の間に底面フィルムを内側に折り返して挿入してなるガセット部を有する形式で形成され、且つ、該ガセット部が自立性を付与する形状のシールパターンでヒートシールされて形成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の係止部付き袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、液体、粉体などの流動性を有する内容物を密封包装するために用いられる積層フィルム製の袋に関し、特に内容物を使用する際、口径の小さな容器に対しても安全且つ容易に移し替えられるよう、狭い幅の注出口部を備えると共に、開口させた注出口部を保形性よく保つための簡便な係止部が設けられた袋に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、液状物などの流動性を有する内容物を密封包装し、内容物の使用時に、内容物をコップやボトルなどの他の容器に移し替えて使用するような袋としては、通常、積層フィルム製の袋が用いられ、特に内容物を他の容器に移し替える際、比較的口径の小さな容器に対しても、外にこぼすことなく安全に移し替えられるよう、袋の上部などに狭い幅の注出口部を設けた袋、或いは、プラスチックの成形体による別体のキャップ付きの注出口を取り付けた袋などが用いられている。

【0003】また、袋自体の形状は、三方シール形式、四方シール形式などの平袋形式のほか、スタンディングパウチ形式などの自立袋形式などが採られている。特にスタンディングパウチなどの自立袋は、積層フィルムなど軟包装材料で形成されているにも拘わらず、自立性が

あり取り扱いやすく立体容器としての特徴も備えていることから、液体、粉体などの容器として広く採用されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】前記袋の上部などに狭い幅の注出口部を設けた袋は、液状などの内容物を注出する際、内容物の流出幅を狭い範囲に制御することができるので、比較的安全に内容物を他の容器に移し替えることができる。しかし、このような袋でも注出口部の幅が狭く形成されているため、注出口部の両面のフィルムが内面同士で密着し易く、内容物注出のため開口させた注出口部が、注出の後半で内容物の残量が少なくなると注出の内圧も小さくなるため、閉じやすくなり、一旦閉塞すると袋の胴部を手で圧迫して強制的に内容物を押し出す必要を生じ、手で圧迫すると瞬間的に勢いよく流出するため、内容物をこぼしやすいという問題があった。また、袋の形状が、通常は矩形状であり、内容量が 1.5～2.0 L のように大きくなると、必然的に注出口部近辺の袋の上部の幅も大きくなり、内容物を注出する際、手で持ち難く、注出の操作自体が厄介になる問題があった。

【0005】また、前記袋の上部などにプラスチックの成形体よりなる別体のキャップ付き注出口を取り付けたものは、予め袋に充填される内容物の粘度や移し替えを行う容器の口部の大きさに応じて、注出口の口径を設定でき、且つ、注出口が保形性にも優れているので、注出の途中で注出口が閉塞することもなく、安全に内容物を移し替えることができる。しかし、このような注出口を袋に取り付けた場合、袋が嵩張り、また、袋が自立袋の場合には、内容物の充填を口径の小さな注出口から行う必要があるため、専用の充填装置を必要とし、更に、注出口のコストも余分にかかるため、包装にかかるコストが大幅にアップする問題があった。

【0006】本発明はこのような問題点を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、プラスチックの成形体などによる別体の注出口を必要とせず、内容物の充填も容易で、しかも袋に充填された内容物を他の容器に移し替える際には、袋の上部などに形成された狭い幅の注出口部を容易に開口させることができ、且つ、その開口部を袋の両側の端縁部に設けられた係止部で簡便に保形性よく維持することができ、更に、袋の容量が比較的大きい場合でも手で持ちやすく、内容物を最後まで安全且つ容易に移し替えることのできる係止部付き袋を生産性よく提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の課題は、以下の本発明により解決することができる。即ち、請求項 1 に記載した発明は、周囲の端縁部が袋状にヒートシールされ、流動性を有する内容物が密封包装される積層フィルム製の袋であって、該袋の上部を封止するヒートシール

部が、内側の中央部に注出口部を形成するための非シールの窪み部を有するシールパターンでヒートシールされ、該注出口部を開封する開封手段が該窪み部を横切るように設けられると共に、該袋の両側の端縁部のヒートシール部の上部に、開口された注出口部の両側を折り曲げて両側の端縁部同士を係止し、注出口部の開口を保持するための差し込み部と受け部からなる係止部が設けられていることを特徴とする係止部付き袋からなる。

【0008】前記注出口部を開封する開封手段としては、例えば、印刷などによる開封指示線を設けて、その部分を鋏などで切り取るようにした手段のほか、(イ)袋の外周のヒートシール部にノッチを設け、そのノッチを開封開始位置として引き裂く手段、(ロ)一定方向の開封を容易に行うために易引き裂き性フィルム、例えば一軸延伸フィルムをその延伸方向と開封時の引き裂き方向とが一致するように積層フィルム中に積層し、この積層フィルムを袋に用いて引き裂く手段、(ハ)レーザー光照射加工によって形成されたハーフカット線に沿って引き裂く手段、(ニ)機械的方法によって細長くて小さな傷痕群を袋の端部に形成し、その傷痕群を起点として容易に引き裂けるようにした手段などの易開封性手段があり、これらの各開封手段を選択、または適宜組み合わせ採用することができる。

【0009】上記開封指示線は、点線、破線、実線などの線のほか、文字、記号など何で表示してもよく、印刷などにより容易に設けることができる。また、上記ノッチは、通常、一字形やV字形のノッチが多用されているが、その形状に制限はなく、引き裂き方向に向かって尖った部分を有する形状であれば何でもよい。ハーフカット線についても連続する線状のハーフカット線に限らず、ミシン目状の断続的なハーフカット線であってもよい。このようなハーフカット線は、1本でもよいが、引き裂き方向がずれた場合を想定して、中心のハーフカット線の両側に各1本、または各2本など複数のハーフカット線を平行、または中心のハーフカット線に収斂する形状などに設けることもできる。

【0010】開封手段としては、前述のような各種の手段を用いることができるが、少なくとも開封位置に開封指示線を設けることが好ましく、それにより袋の開封位置を明確に指示できるので間違いがなく、且つ、開封指示線と組み合わせ、ノッチ、ハーフカット線、一軸延伸フィルムの積層などの易開封性手段を用いることにより、鋏などの道具を使用することなく、手で容易に引き裂いて開封できるようになる。

【0011】前記のような構成を採ることにより、本発明の係止部付き袋は、内容物の注出口部を、袋の上部のヒートシール部のシールパターン、即ち、内側の中央部に非シールの窪み部が設けられたシールパターンと、その窪み部を横切るように設けられた開封手段とで形成できるので、所望の大きさの注出口部を容易に形成するこ

とができる。従って、プラスチックの成形体などの注出口が不要であり、製造コストの大幅な削減が可能となる。また、上記袋の上部のヒートシール部は内容物の充填後にヒートシールできるので、この部分を内容物の充填口に使用することができ、広い幅の開口部から容易に内容物を充填し密封することができる。そして、袋全体が積層フィルムで形成されるので、積層フィルムの構成を適宜選択することにより、内容物の保存性も優れたものにすることができる。

【0012】また、袋に充填された内容物を使用する際には、注出口部を前記開封手段により容易に開封することができ、開封された注出口部をその両面のフィルムを前後に広げて開口させた後、その状態で袋の上部の両側のコーナー部を同一方向にハの字状に折り曲げて、両側の端縁部のヒートシール部に設けられた係止部、即ち、一方の差し込み部をもう一方の受け部に差し込んで両側端縁部同士を係止することにより、袋の上部の幅を狭くできると同時に、注出口部を開口状態に保持することができる。従って、袋の容量が大きい場合でも袋の上部が持ちやすくなり、また、開口された注出口部を容器の口部に固定しやすく、袋の上部と下部を下側から手で支えて袋を傾けるだけで、開口された狭い幅の注出口部から内容物がスムーズに注出され、注出の途中で注出口部が閉塞することもなく、最後まで安全且つ容易に内容物を他の容器に移し替えることができる。

【0013】請求項2に記載した発明は、前記係止部の差し込み部が鉤状の差し込み片で形成され、受け部が該鉤状の差し込み片と係合する切り欠き部または切り目線で形成されると共に、該鉤状の差し込み片が斜め外側上方を向き、且つ、受け部の切り欠き部または切り目線が、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向き、または横方向を向くように形成されていることを特徴とする請求項1記載の係止部付き袋からなる。

【0014】このような構成を採ることにより、請求項1に記載した発明の作用効果に加えて、袋に充填された内容物の使用に際して、袋の上部の注出口部を前記開封手段で開封し開口させた後、袋の上部の両側を折り曲げて、両側の端縁部同士をその係止部で係止する際、即ち、一方の鉤状の差し込み片をそれに係合するもう一方の切り欠き部または切り目線に差し込んで係止する際、両者の向きが一致するようになり、一方をひねって差し込む必要がなく、そのまま差し込むことができるので、一層容易に両側の端縁部同士を係止し、注出口部の開口を保持できるようになる。

【0015】請求項3に記載した発明は、前記袋の底面が、前後2面の壁面フィルムの下部の間に底面フィルムを内側に折り返して挿入してなるガセット部を有する形式で形成され、且つ、該ガセット部が自立性を付与する形状のシールパターンでヒートシールされて形成されて

いることを特徴とする請求項1または2に記載の係止部付き袋である。

【0016】上記自立性を付与する形状のシールパターンは、内側が両側から中央部に向けて凹状に窪んだ形状となるシールパターンであれば何でもよく、特に、内側が両側から中央部に向けて湾曲線状に窪んだ形状となるシールパターン、もしくは内側が所定幅の底部から両側が外側に傾斜直線状に立ち上がる形状のシールパターンなど、所謂船底形のシールパターンが特に好ましい。このような構成を採ることにより、請求項1または2に記載した発明の作用効果に加えて、内容物が充填された袋は、下部のガセット部とそのシールパターンにより、底部が前後に大きく広がり、底面の外周にはヒートシール部による脚部が形成されるため、優れた自立性が付与される。従って、容量の割にコンパクトに包装することができ、また、袋を立てて置くことができるので置き場所にスペースを取らず、取り扱いも一層容易になる。

【0017】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の係止部付き袋の製造に用いる積層フィルム、および係止部付き袋の製造方法など発明の実施の形態について説明する。先ず、本発明の係止部付き袋の製造に用いる積層フィルムは、特に限定はされず、液状などの内容物の包装用袋に用いられている公知の積層フィルムは、いずれも使用することができ、充填する内容物の種類や充填後の加熱処理の有無など使用条件に応じて、適する構成の積層フィルムを自由に選択して使用することができる。本発明の係止部付き袋に用いる積層フィルムの代表的な構成例として、以下のような構成が挙げられる。

【0018】(1) ONフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(2) ONフィルム／接着剤／一軸延伸または二軸延伸HDPEフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(3) ONフィルム／接着剤／一軸延伸または二軸延伸PPフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(4) ONフィルム／接着剤／一軸延伸または二軸延伸PPフィルム／接着剤／アルミニウム箔／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(5) ONフィルム（シリカまたはアルミナ蒸着層）／接着剤／一軸延伸または二軸延伸HDPEフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(6) ONフィルム／接着剤／（シリカまたはアルミナ蒸着層）PETフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(7) ONフィルム／アンカーコート層／共押し出しコート層（HDPE層／L・LDPE層）（シーラント層は、L・LDPE層）

(8) ONフィルム／アンカーコート層／共押し出しコー

ト層（HDPE層／LDPE層）／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(9) PETフィルム／接着剤／アルミニウム箔／接着剤／ONフィルム／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(10) PETフィルム／接着剤／アルミニウム箔／接着剤／ONフィルム／接着剤／CPPフィルム（シーラント層）

10 (11) PETフィルム／接着剤／ONフィルム／接着剤／アルミニウム箔／接着剤／L・LDPEフィルム（シーラント層）

(12) PETフィルム／接着剤／ONフィルム／接着剤／アルミニウム箔／接着剤／CPPフィルム（シーラント層）

(13) PETフィルム／接着剤／EVOHフィルム／接着剤／ONフィルム／接着剤／CPPフィルム（シーラント層）などが挙げられるが、これらに限定されるものではなく様々な組み合わせの積層フィルムを使用することができる。

20 【0019】上記の構成において、ONフィルムは二軸延伸ナイロンフィルム、PETフィルムは二軸延伸ポリエチレンテレフタレートフィルム、PPはポリプロピレン、HDPEは高密度ポリエチレン、LDPEは低密度ポリエチレン、L・LDPEは直鎖状低密度ポリエチレン、CPPフィルムは無延伸ポリプロピレンフィルム、また、EVOHフィルムはエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物フィルムを指すものである。そして、各フィルム層の間の接着剤は、通常、その積層をドライラミネーション法で行うため、2液硬化型ポリウレタン系接着剤など公知のドライラミネーション用接着剤を用いることができる。また、アンカーコートは、押し出しコーティングで樹脂を積層する際、接着性を向上させるために基材フィルム側に予めコーティングするものであり、プライマーコート的一种である。

30 【0020】前記の積層フィルムの構成において、ONフィルム、PETフィルムは、最外層に用いる場合は、基材フィルムとして袋に機械的強度や耐熱性、印刷適性などを付与するために用いられ、中間層に用いる場合は、主に機械的強度を補強するために用いられる。中間層に一軸延伸HDPEフィルム、または一軸延伸PPフィルムを用いる場合は、その延伸方向を、袋を開封する際の引き裂き方向と一致するように積層することにより、引き裂きを容易にし、且つ、その方向性を安定化させることができる。また、中間層に二軸延伸HDPEフィルム、または二軸延伸PPフィルムを用いた場合は、積層フィルムの厚さを増し、その剛性や機械的強度を高めると同時に、水蒸気透過度を小さくすることができる。

40 【0021】そして、アルミニウム箔、シリカまたはアルミナ蒸着層、EVOHフィルムなどは、主にガスバリ

ヤー性を付与するために積層するものであり、これらのほか、アルミニウムなどの金属蒸着層、ポリ塩化ビニレンの塗膜層、或いは、ポリアクリロニトリルフィルムなどのガスバリアー性材料を積層することもできる。

【0022】最内層のシーラント層としては、L・LDPEフィルムとCPPフィルムの二種類の例を挙げたが、L・LDPEフィルムは、ヒートシールの安定性や耐内容物性、例えば界面活性剤に対する耐ストレスクラッキング性などに優れ、CPPフィルムは、耐熱性、低臭性に優れており、これらの性能を必要とする内容物の包装用に適している。

【0023】シーラント層には上記のほか、充填される内容物に応じて、エチレン・ α オレフィン共重合体、エチレン・酢酸ビニル共重合体、エチレン・アクリル酸共重合体、エチレン・アクリル酸エステル共重合体、アイオノマー、ポリエステル系樹脂なども適宜選択して使用することができる。特に、エチレン・ α オレフィン共重合体でメタロセン系触媒などシングルサイト触媒を用いて重合したものは、分子量分布の幅が狭く、共重合比も安定しているため、低温ヒートシール性や、熱間シール性に優れており、安定したヒートシールを容易に行える点で好ましい。

【0024】尚、本発明の係止部付き袋に充填される内容物は、液状物のほか、粉状、粒状など流動性を有するものであれば、食品、非食品など何でもよいが、例えば、食用油など酸化され易い内容物が充填される場合は、前記積層フィルムのいずれかの一層、または複数の層に紫外線吸収剤を練り込むことができる。また、紫外線吸収剤を樹脂と混合し、コーティング方式で紫外線吸収層を設けてもよい。紫外線吸収剤としては、以下から選択される一種または二種以上の化合物を使用することができる。有機系では、ベンゾフェノン系、ベンゾアリゾール系、サリチル酸系、有機ニッケル系、アクリロニトリル系、モノ安息香酸系、シュウ酸アニリド系、シアノアクリレート系、トリアゾ系の紫外線吸収剤、また、無機系では、チタン、亜鉛、セリウムなどの各元素の酸化物を使用することができる。

【0025】次に、以上のような積層フィルムを用いて製造する本発明の係止部付き袋の製造方法について説明する。本発明の係止部付き袋は、先にも説明したように、液状などの内容物を密封包装し、内容物を使用する際に、コップやボトルなどの他の容器に安全且つ容易に移し替えられるよう、袋の上部の中央部に狭い幅の注出口部が設けられるように袋の上部シール部のシールパターンを内側の中央部に非シールの窪み部を設けたシールパターンに変更し、また、その非シールの窪み部を横切るように開封手段を設けると共に、開封された注出口部の開口を固定的に維持するための係止部を注出口部の左右両側の袋の端縁部のヒートシール部に設けて構成したことを特徴としている。

【0026】従って、袋本体の形式に応じて、例えば、袋本体を四方シール形式の袋とする場合は、四方シール形式の袋の製袋機を利用し、また、袋本体を自立袋形式の袋とする場合は、スタンディングパウチ用の製袋機を利用して、その側部や底部のシールパターンを適宜変更すると共に、下記のような加工装置を適宜付加することにより容易に製造することができる。

【0027】即ち、開封手段として、例えば、ノッチおよびハーフカット線を設ける場合は、ノッチの打ち抜き装置およびハーフカット線を設けるレーザー照射装置などを付加し、また、係止部の差し込み部と受け部を設ける打ち抜き装置などを付加して、それぞれを加工することにより容易に製造することができる。尚、袋の上部に設ける注出口部に関しては、通常、袋の上部のヒートシールは内容物の充填後に行うため、充填シール機のヒートシールパターンを、内側の中央部に非シールの窪み部を設けたシールパターンに変更してヒートシールすることにより注出口部を形成することができる。

【0028】

【実施例】以下に、図面を用いて本発明を更に具体的に説明する。但し、本発明は、その要旨を超えない限り、以下の図面に限定されるものではない。図1～図10は、それぞれ本発明の係止部付き袋の一実施例の構成を示す正面図である。但し、袋本体の形式は、総て自立袋形式とし、袋の上部のヒートシール部のシールパターンも同じ形状とし、注出口部の左右両側の袋の端縁部のヒートシール部に設ける係止部、即ち、差し込み部と受け部の形状のみをそれぞれ異なる形状に変更して示したものである。従って、袋本体の形式は、例えば、四方シール形式などの平袋形式でもよく、また、注出口部を形成する袋の上部のヒートシール部の内側の中央部に設けた非シールの窪み部の大きさなども、充填される内容物の粘度や移し替えを行う容器の口部の大きさなどに応じて、適するように変更して設けることができる。

【0029】図1は、本発明の係止部付き袋の第1の実施例の構成を示す正面図である。図1に示した係止部付き袋101は、その下部が、前後2面の壁面フィルム1、1'の下部の間に底面フィルムを内側に向けて折り返し、その両側端縁部の下端近傍に底面フィルム切り欠き部2、2を設けて、底面フィルム折り返し部3まで挿入してなるガセット部4を有する形式で形成され、該ガセット部4が、内側が両側から中央部に向けて湾曲線状に窪んだ形状となる船底形のシールパターン、即ち、底部シール部5でヒートシールして形成され、胴部が、前後2面の壁面フィルム1、1'の両側の端縁部を、上部に差し込み部12と受け部13からなる係止部を設けるための広幅部を設けた側部シール部6、6でヒートシールして形成されている。

【0030】袋の上部の開口部は、内容物の充填後に上部シール部7でヒートシールして封止されるが、上部シ

ール部 7 は、その内側の中央部に注出口部 9 を形成するための非シールの窪み部 8 が設けられたシールパターンで形成されている。また、袋の上部の端縁部には、注出口部 9 を開封する開封手段として、開封指示線 10 とその両側の端部にノッチ 11、11 が、非シールの窪み部 8 を横切るように設けられ、更に、前記注出口部 9 を形成する非シールの窪み部 8 の左右両側の袋の端縁部のヒートシール部、即ち、側部シール部 6、6 の上部の一方の広幅部（図において左側の広幅部）に、係止部の差し込み部 12 として、切り欠き部 a、b により斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片が設けられ、もう一方の広幅部（図において右側の広幅部）に、前記差し込み片と係合する係止部の受け部 13 が、切り欠き部 c によりその長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きに設けられて構成されている。

【0031】尚、前記開封指示線 10 の位置には、更にこれに沿うようにハーフカット線を追加して設けてもよく、また、開封指示線 10 に換えてハーフカット線を設けてもよい。また、前記差し込み部 12 と受け部 13 の位置関係は、互いに左右逆の位置に設けられていてもよい。

【0032】このような構成を採ることにより、係止部付き袋 101 は、内容物の注出口部 9 が上部シール部 7 のシールパターンと袋の上部の端縁部に設けられた開封手段とで形成されるので、プラスチックの成形体などによる別体の注出口を必要とせず、製造が容易であると同時に製造コストも削減できる。また、袋全体が積層フィルムで形成されているので、軽量で嵩張らず、内容物の保存性にも優れている。そして、内容物の充填は、上部の開口部、即ち、未シールの上部シール部 7 から容易に充填し、ヒートシールして密封することができる。

【0033】内容物が充填された袋 101 は、下部のガセット部 4 が内側が湾曲線で形成された船底形の底部シール部 5 でヒートシールされているので、底部が前後に丸形に大きく広がり、底面の外周には、底面フィルム切り欠き部 2、2 で両側が接合されたヒートシール部によるリング状の脚部が形成されるため、優れた自立性が付与され、取り扱いが容易になる。

【0034】充填された内容物を他の容器に移し替える際には、ノッチ 11 を利用して開封指示線 10 に沿って袋の上部の端縁部を切り取ることにより、非シールの窪み部 8 による適する大きさの注出口部 9 が容易に開封される。開封された注出口部 9 をその両面のフィルムを前後に広げて開口させた後、その状態で袋の上部の両側の端縁部を同一方向に折り曲げて、両側端縁部の側部シール部 6、6 の広幅部に設けられた係止部、即ち、一方の差し込み部 12 をもう一方の受け部 13 に差し込んで両側端縁部同士を係止することにより、袋の上部の幅を狭くできると同時に、注出口部 9 を開口状態に保持することができる。尚、上記差し込み部 12 は、切り欠き部

a、b により斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片として設けられ、受け部 13 は、切り欠き部 c によりその長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きに設けられているので、両者を係合させる際、袋の上部の両側のコーナー部を、ハの字状に内側に折り曲げることにより、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片を切り欠き部 c に差し込んで係合させることができる。

【0035】従って、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作が極めて容易であり、また、それにより袋の容量が大きい場合でも袋の上部が持ちやすくなり、袋の上部と下部を下側から手で支えて袋を傾けるだけで、保形性よく開口された狭い幅の注出口部 9 から内容物がスムーズに注出され、注出の途中で注出口部 9 が閉塞することもなく、最後まで安全且つ容易に内容物を他の容器に移し替えることができる。

【0036】図 2 は、本発明の係止部付き袋の第 2 の実施例の構成を示す正面図である。図 2 に示した係止部付き袋 102 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成した場合は、総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、切り欠き部 d、e により、斜め外側上方に向き先端部が丸形で基部が括れた形状の鉤状の差し込み片とし、これに係合する受け部 13 は、切り欠き部 f により、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きで、上外側に係合部を有する形状に変更して形成したものである。この場合、差し込み部 12 の内側の切り欠き部 e は、その内側の先端部が鋭角で開封指示線 10 と一致するように設けられているのでノッチとしての作用も有している。

【0037】このような構成を採った場合も、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 f に差し込んで係合させる際、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片を切り欠き部 f に差し込んで係合させることができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0038】図 3 は、本発明の係止部付き袋の第 3 の実施例の構成を示す正面図である。図 3 に示した係止部付き袋 103 も、前記図 2 に示した係止部付き袋 102 の場合と同様、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したもの

10

20

30

40

50

であり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、切り欠き部 g、h により、斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片として形成し、これに係合する受け部 13 は、切り欠き部 i により、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きで、上部に係合部を有する形状に変更して形成したものである。この場合も、差し込み部 12 の上側の切り欠き部 g は、その内側の先端部が鋭角で開封指示線 10 と一致するように設けられているのでノッチとしての作用も有している。

【0039】このような構成を採った場合も、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 i に差し込んで係合させる際、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片を切り欠き部 i に差し込んで係合させることができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作は極めて容易である。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0040】図 4 は、本発明の係止部付き袋の第 4 の実施例の構成を示す正面図であり、図 4 に示した係止部付き袋 104 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したものであり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、切り欠き部 j、k により、斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片として形成し、これに係合する受け部 13 は、スリット状の切り欠き部 l により、その長手方向のラインが横方向に向く形状に変更して形成したものである。この場合も、差し込み部 12 の上側の切り欠き部 j は、その内側の先端部が鋭角で開封指示線 10 と一致するように設けられているのでノッチとしての作用も有している。

【0041】このような構成を採った場合も、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 l に差し込んで係合させる際、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片をスリット状の切り欠き部 l に差し込んで係合させることができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0042】図 5 は、本発明の係止部付き袋の第 5 の実施例の構成を示す正面図であり、図 5 に示した係止部付き袋 105 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、

6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したものであり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、その上部は開封指示線 10 に沿って注出口部 9 を開封した時、開封ラインにより自動的に形成されるようにし、下側のみに切り欠き部 m を設けて、斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片を形成し、これに係合する受け部 13 は、斜め外側上方に突状となる折れ線状でスリット状の切り欠き部 n を、その長手方向のライン（両端を結ぶライン）が上方から下方に向けて外側に傾斜する向きに形成して構成したものである。

【0043】このような構成を採った場合も、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 n に差し込んで係合させる際、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片をスリット状の切り欠き部 n に差し込んで係合させることができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0044】図 6 は、本発明の係止部付き袋の第 6 の実施例の構成を示す正面図であり、図 6 に示した係止部付き袋 106 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したものであり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、その上部が開封指示線 10 の一部とスポット状の切り欠き部 o で形成され、下部が内側の端部に小孔を設けた切り目線 A で形成される斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片として形成し、これに係合する受け部 13 は、スリット状の切り欠き部 p を、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きに形成して構成したものである。

【0045】このような構成を採った場合も、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 p に差し込んで係合させる際、例えば差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片をスリット状の切り欠き部 p に差し込んで係合させることができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0046】図 7 は、本発明の係止部付き袋の第 7 の実施例の構成を示す正面図であり、図 7 に示した係止部付き袋 107 は、前記図 6 に示した係止部付き袋 106 の

10

20

30

40

50

構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 のうち、受け部 13 の形状のみを、スリット状の切り欠き部 p から両側の端部に小孔を設けた切り目線 C に変更して形成したものであり、切り目線 C の位置およびその傾斜角度は、前記図 6 に示したスリット状の切り欠き部 p と同じである。

【0047】従って、このような構成を採った場合、差し込み部 12 の鉤状の差し込み片を受け部 13 の切り目線 C に差し込んで係合させる際、受け部 13 の幅が狭くなっていることによる差し込みやすさが若干変わるものの、差し込み片をひねって差し込むような操作は必要ではなく、そのまま鉤状の差し込み片を切り目線 C に差し込んで係合させることができるので、前記図 6 に示した係止部付き袋 106 と略同様な作用効果を得ることができる。

【0048】図 8 は、本発明の係止部付き袋の第 8 の実施例の構成を示す正面図であり、図 8 に示した係止部付き袋 108 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したものであり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、上側の端部に小孔を設けた切り目線 D により、斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片として形成し、これに係合する受け部 13 は、上下両側の端部に小孔を設けた切り目線 E により、その長手方向のラインが上方から下方に向けて外側に傾斜する向きで、且つ、切り目線 E の上側端部の小孔が開封指示線 10 と交差する位置となるように設けて構成したものである。

【0049】このような構成を採ることにより、注出口部 9 の開封後は、受け部 13 の切り目線 E の上端が切断されて開放されるが、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り目線 E に差し込む際、差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片を切り目線 E の上部から差し込むことにより、切り目線 D の上端の小孔と、切り目線 E の下端の小孔とが係合して両者を係止することができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0050】図 9 は、本発明の係止部付き袋の第 9 の実施例の構成を示す正面図であり、図 9 に示した係止部付き袋 109 は、前記図 1 に示した係止部付き袋 101 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた係止部の差し込み部 12 と受け部 13 の形状のみを以下のように変更して形成したものであり、その他の構成は総て図 1 に示した係止部付き

袋 101 と同様に形成して構成したものである。即ち、差し込み部 12 は、その上部は開封指示線 10 に沿って注出口部 9 を開封した時、開封ラインにより自動的に形成されるようにし、下側のみに切り欠き部 r を設けて、斜め外側上方に向く鉤状の差し込み片を形成し、これに係合する受け部 13 は、しの字状の切り欠き部 s を、その長手方向のライン（両端を結ぶライン）が上方から下方に向けて外側に傾斜する向きで、且つ、切り欠き部 s の上側端部が開封指示線 10 と交差する位置となるように設けて構成したものである。

【0051】このような構成を採ることにより、注出口部 9 の開封後は、受け部 13 の切り欠き部 s の上側端部が切断されて開放されるが、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り欠き部 s に差し込む際、差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま鉤状の差し込み片を切り欠き部 s の上部から差し込むことにより、切り欠き部 r の上部と、切り欠き部 s の下外側端部とが係合して両者を係止することができるので、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作を極めて容易に行うことができる。従って、前記図 1 に示した構成の係止部付き袋 101 と同様な作用効果を得ることができる。

【0052】図 10 は、本発明の係止部付き袋の第 10 の実施例の構成を示す正面図であり、図 10 に示した係止部付き袋 110 は、前記図 8 に示した係止部付き袋 108 の構成において、袋の左右両側端縁部の側部シール部 6、6 の上部の広幅部に設けた差し込み部 12 と受け部 13 の切り目線 D と切り目線 E の形状のみを、切り目線 D は、上側の端部の小孔を丸形鉤状の切り目線に変えて切り目線 F として形成し、切り目線 E は、上下両側の端部の小孔のうち、下側端部の小孔のみを丸形鉤状の切り目線に変えて切り目線 G として形成したものであり、それぞれの位置および傾斜角度は、前記図 8 に示した切り目線 D および切り目線 E と同様に形成したものである。

【0053】このような構成を採った場合も、袋の上部の端縁部同士を差し込み部 12 と受け部 13 で係止する際、袋の上部の両側のコーナー部をハの字状に内側に折り曲げて、差し込み部 12 の差し込み片を受け部 13 の切り目線 G の上部から差し込むことにより、差し込み片をひねって差し込むような操作を必要とせず、そのまま差し込むことができ、また、切り目線 F の上端の丸形鉤状部と切り目線 G の下端の丸形鉤状部とが係合して両者を係止することができる。従って、袋の上部の両側端縁部同士の係止操作は極めて容易であり、前記図 8 に示した構成の係止部付き袋 108 と同様な作用効果を得ることができる。

【0054】

【発明の効果】以上、詳しく説明したように、本発明に

10

20

30

40

50

よれば、プラスチックの成形体などによる別体の注出口を必要とせず、内容物の充填の際には、袋の上部の広い幅の開口部から容易に充填して密封することができ、しかも、充填された内容物を他の容器に移し替える際には、袋の上部に適する大きさの注出口部を容易に開口させることができ、且つ、開口させた状態で袋の上部の両側コーナ部をハの字状に折り曲げて両側端縁部のヒートシール部に設けられた係止部で両側端縁部同士を係止することにより、袋の上部の幅を狭くできると同時に、注出口部を開口状態に保持でき、袋の容量が大きい場合でも袋の上部を持ちやすく、袋の上部と下部を下側から手で支えて袋を傾けるだけで、内容物を最後まで安全且つ容易に移し替えることができるという、経済性および使用適性に優れた係止部付き袋を生産性よく提供できる効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の係止部付き袋の第 1 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 2】本発明の係止部付き袋の第 2 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 3】本発明の係止部付き袋の第 3 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 4】本発明の係止部付き袋の第 4 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 5】本発明の係止部付き袋の第 5 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 6】本発明の係止部付き袋の第 6 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 7】本発明の係止部付き袋の第 7 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 8】本発明の係止部付き袋の第 8 の実施例の構成を示す正面図である。

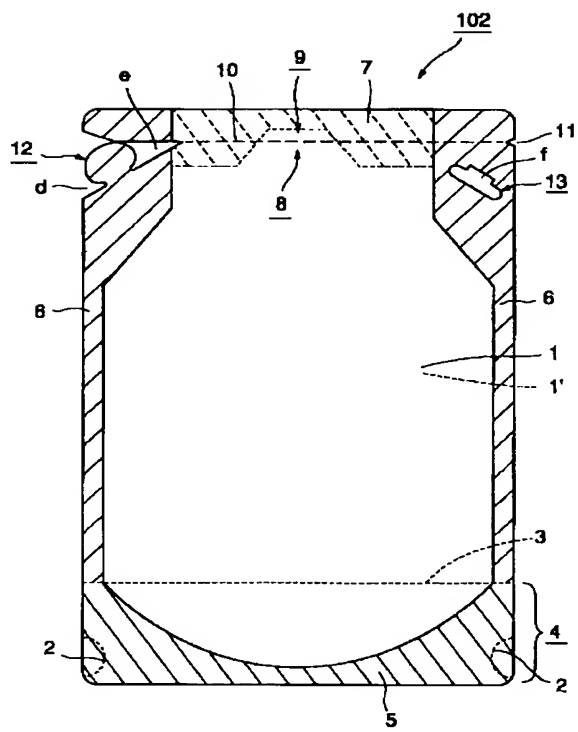
【図 9】本発明の係止部付き袋の第 9 の実施例の構成を示す正面図である。

【図 10】本発明の係止部付き袋の第 10 の実施例の構成を示す正面図である。

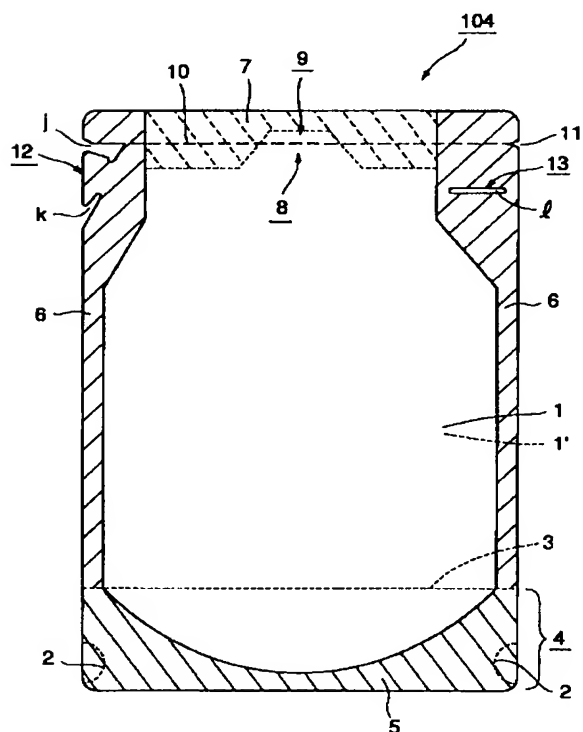
【符号の説明】

- 1、1' 壁面フィルム
- 2 底面フィルム切り欠き部
- 3 底面フィルム折り返し部
- 4 ガセット部
- 5 底部シール部
- 6 側部シール部
- 7 上部シール部
- 8 非シールの窪み部
- 9 注出口部
- 10 開封指示線
- 11 ノッチ
- 12 差し込み部
- 13 受け部
- a、b、c、d、e、f、g、h、i、j、k、l、m、n、o、p、q、r、s 切り欠き部
- A、B、C、D、E、F、G 切り目線
- 101、102、103、104、105、106、107、108、109、110 係止部付き袋

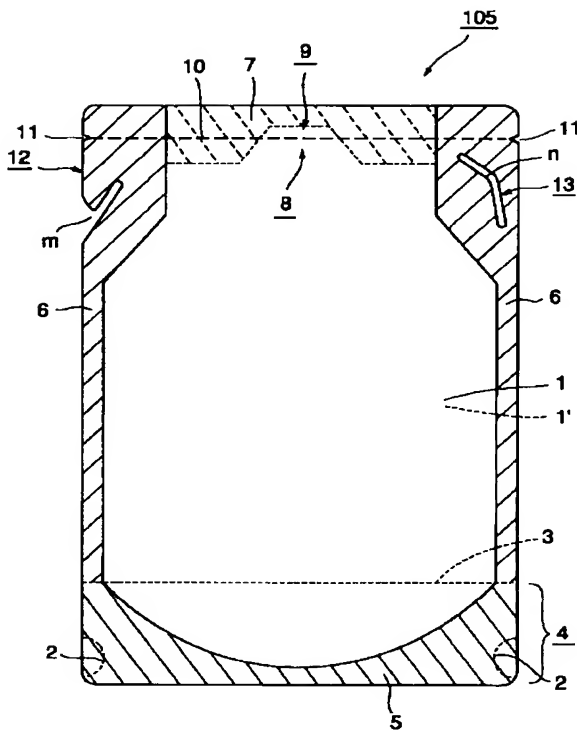
【図 2】



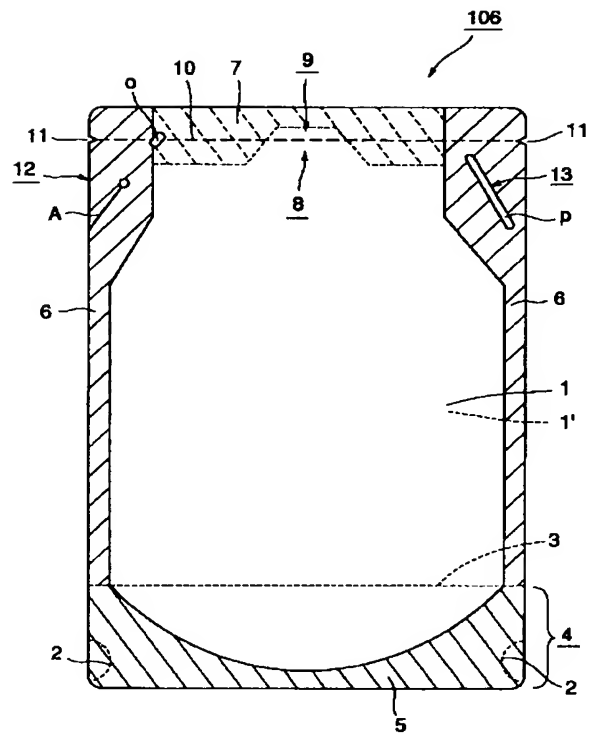
【图 4】



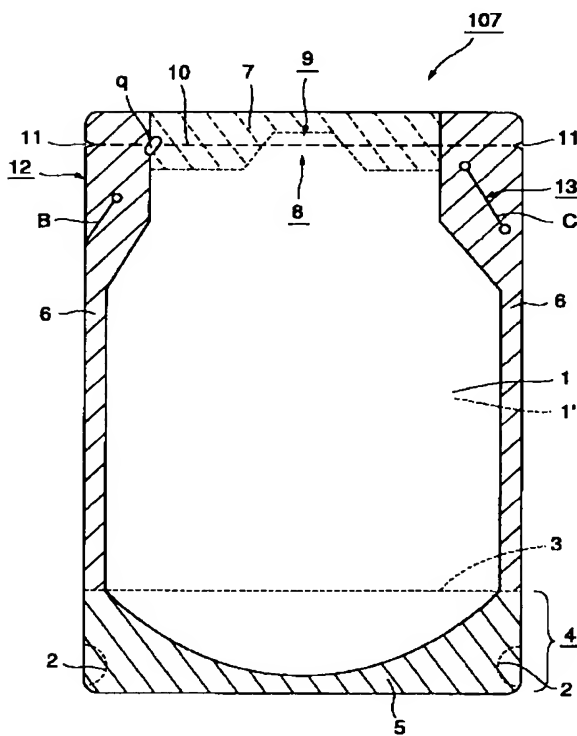
【図 5】



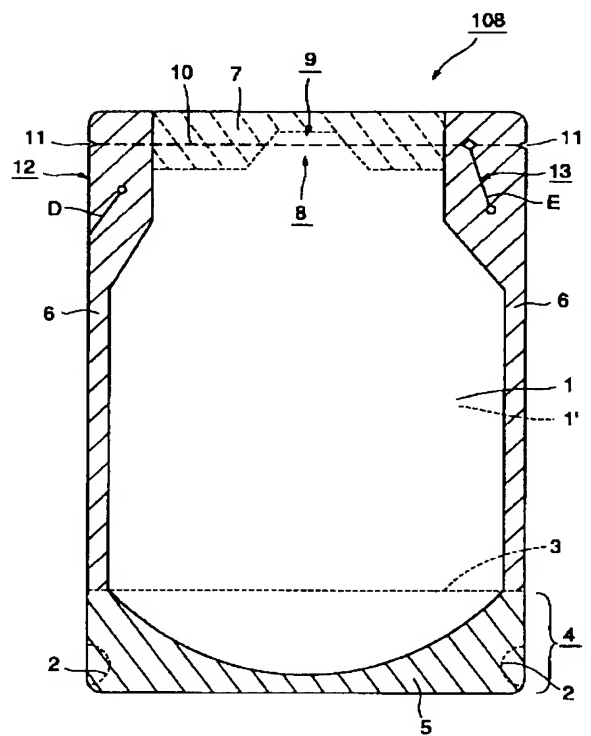
【図 6】



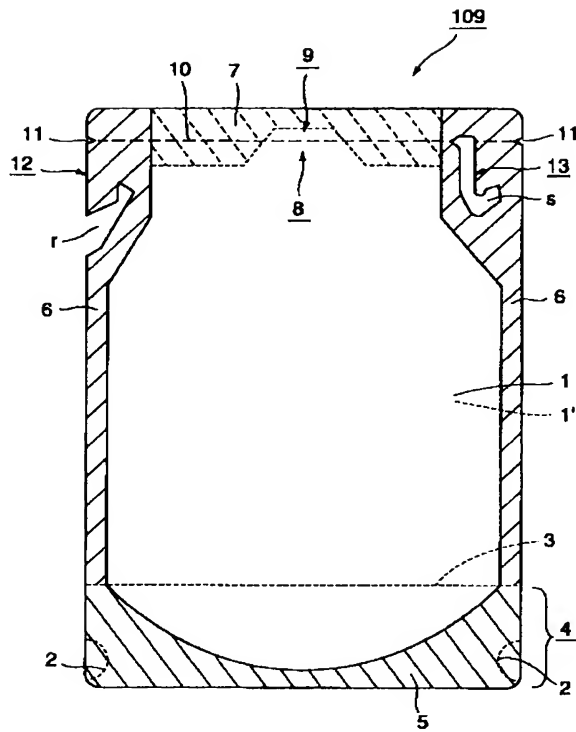
【图 7】



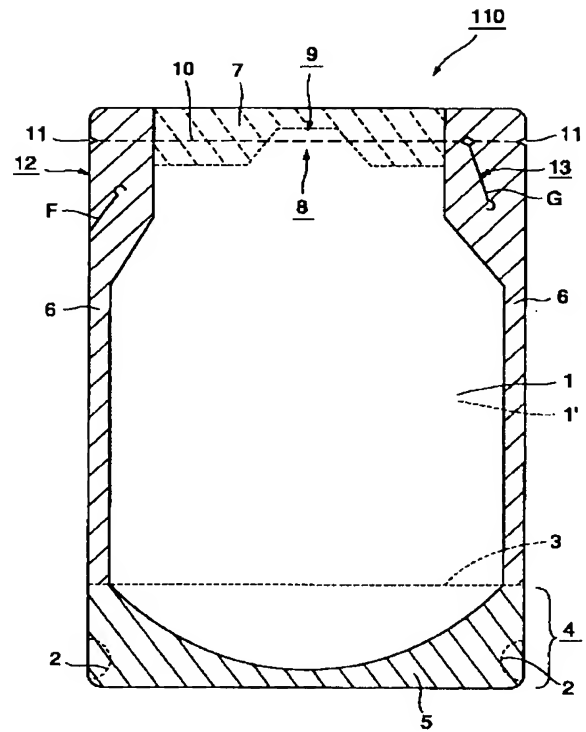
【图 8】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 青木 敬隆
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 大塚 康司
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
Fターム(参考) 3E064 AB25 BC18 EA23 HS05 HS10